

## 第3期おいらせ町まち・ひと・しごと創生総合戦略実現へ向けた具体的な提案や意見等

## 基本目標② 新しいひとの流れの創出・拡大への意見や要望等

|             |   |
|-------------|---|
| 委員からの意見や要望等 | 空き家の活用へ向けた取組  |
|             | <ul style="list-style-type: none"> <li>・町に宿泊施設が少ないため、観光目的の宿泊客が近隣市町に流れてしまっている。状態の良い空き家を宿泊施設として活用する事業を実施してはどうか。空き家の予防・解消のほか、観光宿泊客の増加、宿泊客へ町や地域の良さのPR、町内の飲食店等への誘導、帰省客や学生達のキャンプ以外の宿泊施設として期待できる。</li> <li>・空き家をリノベーションし、新たな撮影スポット（SNSや動画撮影場所）として提供してはどうか。利用客による町の情報発信が期待できる。</li> </ul>   |
| 委員からの意見や要望等 | 年間観光客入込数の増加に向けた取組   |
|             | <ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタル化が進み、現代ではゲームがない環境にすることが難しいため、健全なゲームを活用したイベントを検討してはどうか。例：高齢者の脳トレのためのゲームイベント、健康づくりを目的としたバーチャル映像によるスポーツ体験やイベント等</li> <li>・大人も子どもも楽しくテクノロジーを体感、学べる施設（デジタル技術に触れる、学べる施設）を設置してはどうか。子どもの未来につながる施設が多いほど、定住率や出生率が上昇すると思われる。また施設の運用の仕方によっては、デジタル関係の仕事としての魅力発信にもつながる。その施設に併設して、百石高校食物調理科関連の施設（プロデュースカフェや商品）や屋内で快適に過ごせる施設（図書館等）も検討してはどうか。</li> <li>・アスレチックや屋内で運動できる施設やeスポーツに特化した施設を設置してはどうか。その際、近隣市にある公共施設を参考にしてはどうか。例：三沢市や南部町にある大型プール等</li> <li>・百石まつり、下田まつりはあるが、木ノ下小学校区の祭りがないので、今後検討していただきたい。</li> </ul> |
| 委員からの意見や要望等 | 町への転入者、転出者アンケート調査の実施  |
|             | <ul style="list-style-type: none"> <li>・転入・転出者に対して、アンケート調査を実施してはどうか。今後の移住施策へのヒントを得られると思う。</li> </ul>  |

## 基本目標④ 安心して住み続けることができる地域づくりの意見や要望等

|             |   |
|-------------|---|
| 委員からの意見や要望等 | 町内会加入率の増加に向けた取組   |
|             | <ul style="list-style-type: none"> <li>・町内会加入率アップに向けて、若い世代等にも加入してもらえそうなPR方法を検討してはどうか。町内会加入率が低い原因の一つとして、若い世代が町内会加入に消極的だと感じる。町内会加入率が上昇することで、地域の高齢者や子どもへの見守り活動等が活発になり、町の防犯につながる。また、町内会員同士の集まる機会が増加することで、介護予防や若い世代の育児うつ等の解消にもつながる。町内会加入率の高い自治体のPR方法を参考に検討いただきたい。</li> </ul>   |
| 委員からの意見や要望等 | デジタルを学べる場の創出に向けた提案  |
|             | <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童、生徒が平等に「デジタル技術を学べる場」の創出が必要と思われる。他自治体で実施しているプログラミングや工作を自由に学べるICT公営塾やICT講座を参考としていただきたい。</li> <li>・メンター（指導者、支援者）の活用を検討してはどうか。例えば、高齢者のスマホ講座のメンターとして百石高校生の協力等、デジタルを学びながら、世代間交流や域外交流を促してはどうか。</li> </ul>  |
| 委員からの意見や要望等 | 公共交通の利便性向上へ向けた提案  |
|             | <ul style="list-style-type: none"> <li>・オンデマンド型乗合タクシーの運営（フルデマンドまたはセミデマンド）またはおいらバスの一部をセミデマンドのデマンド型乗合タクシーとして活用してはどうか。</li> </ul>  |
| 委員からの意見や要望等 | 地域共生社会の体制づくりへ向けた提案  |
|             | <ul style="list-style-type: none"> <li>・内閣府はDX・GX人材の活用として外部人材のマッチング等を実施しているが、地域の中の人材についても検討する必要がある。ふるさと納税等の影響により「取られる税金」から「納める税金」へ住民意識が転換しているように感じる。今後は、行政の意思決定のプロセスに住民が参加し、予算の用途を「可視化」することが、地域アイデンティティを高め、住民の定着や若い世代を呼び込む人口減少対策になる可能性がある。人口減は避けられないが、多彩な人材が集う「にぎやかな過疎」を目指し、域内、域外を問わずに人材の確保と増大が重要だと思われる。</li> </ul> |

なお、基本目標①と基本目標④については、意見等はありません。